

2018
年度

活動 報告書



認定NPO法人 中部リサイクル運動市民の会

2018年度を振り返って

平成最後を締めくくる2018年度も多くの自然災害に見舞われました。6月の大阪北部地震に始まり、西日本豪雨、夏の災害級猛暑、北海道胆振東部地震と、多くの尊い命が失われました。この場をお借りして亡くなられた皆さまのご冥福をお祈り申し上げます。

また、廃棄物の世界では、深刻なプラスチックごみの現状が浮き彫りになりました。すでに我々人間の体内にもマイクロプラスチックが吸収されているというニュースには大きな衝撃を受けました。

異常気象やマイクロプラスチックの問題は、我々の日常生活が深く関与していると言えます。私たちが毎日の生活の一つ一つの行動で何を選択するのか、新たに始まる令和の時代には、その選択基準の中に将来世代のことを考えるゆとりを持ちたいものです。

中部リサイクルでは、2018年9月に新たな拠点「Re☆ショップおおだか」を「(株)にんじん」が経営する名古屋市緑区のオーガニックレストラン内に立ち上げました。レストランの改装を機に、Re☆ショップを併設できないかとの打診を受けたのが7月。それからわずか2か月でオープンに漕ぎつけました。

「Re☆ショップおおだか」は、中部リサイクルがリユース商品を納入し、「にんじん」スタッフが店舗を運営するという新たな運営スタイルをとりました。互いに異なる業態がリユース事業を通じてつながり、win-winの関係を築くことができれば、私たち単体で進めるよりも早い展開が可能となり、また幅広い市民の皆さんへの参加を得られます。

新しく始まる令和の時代も、中部リサイクルは日常に根付いた草の根的な環境活動を地域の皆さんと続けていきます。

皆さまの変わらぬご支援をどうぞよろしくお願ひいたします。

代表理事 永田 秀和



2018年度 活動報告

CONTENTS

- ② 2018年度を振り返って
- ③ 2018年度トピックス
- ④ 活動報告-1
リユース&リサイクルシステムづくり
- ⑦ 活動報告-2
人づくり・環境教育
- ⑦ 活動報告-3
企業とのパートナーシップ
- ⑧ 会員情報



オーガニックレストラン&ショップの中に誕生した「Re☆ショップおおだか」

2018年度 トピックス

2018e

リユース&リサイクルシステムの運営を基盤に、さらに幅広い社会貢献ができるよう、日々新しい活動に挑戦しています。

Re☆ショップおおだかオープン

「Re☆ショップおおだか」は、「(株)にんじん」との協働店舗として2018年9月1日にオープンしました。店舗は、「(株)にんじん」が南生協病院の敷地内で経営するレストラン「新鮮多菜カフェ&レストランにんじん」内の一角落にあります。

店舗の運営は、「(株)にんじん」のスタッフが担い、商品は中部リサイクルが定期的に納品するという新しい試みの店舗展開となっています。この形をベースに、多種多様な団体との連携店舗をこれからも模索していきたいと考えています。



子ども服と絵本のリユースイベントを開催

2018年7月27日(金)～8月7日(火)までの12日間、名古屋市からの委託事業として中部リサイクルが企画運営しました。リユースの推進は、名古屋市の第五次一般廃棄物処理基本計画の中でも基本方針として位置付けられています。期間中は、350人もの市民の方々にご参加いただき、500点近くの寄付品をリユースすることができました。



環境学習エコツアーオーを開催

「レジ袋有料化基金」を活用した夏休みの親子向けの自然体験ツアーとして、2018年7月と8月に中部リサイクルが企画運営しました。(主催:2R推進実行委員会)

豊田市大野瀬町の川をフィールドに、現地で活動する「稻武地球子屋(てらこや)」の皆さんのご協力のもと、3日間で41組83名の親子にご参加いただきました。



ブラザーリビングサービス(株)からの寄付協力

「ブラザー工業(株)」のグループ会社で、社員食堂や社内清掃、警備などを業務とする「ブラザーリビングサービス(株)」社員様のご協力で、衣類や本の寄付をいただきました。(2018年3月より年2回程度の定期開催)

ご寄付いただいたリユース品は、Re☆創庫さくらで仕分け、販売され、「(社福)親愛の里」の精神障がい者の皆さんの支援につながっています。2019年3月に実施いただいた際には、これまでの「ブラザーリビングサービス(株)」の本社事務所があり主要拠点であるブラザー工業瑞穂工場に加え、本社ビル、星崎工場、刈谷工場などの各拠点に散らばる社員の皆さんも対象に広げていただき、回を重ねるごとに寄付品の量が増えています。

業務・拠点・働き方が多様な特性を持つ会社において、全社員が参加しやすい形での地域貢献活動とチャリティショップのモデル的な結びつきとして、今後も大切にしていきたい新たな取り組みです。



ブラザーリビングサービス
(株)で制作いただいた社員
向け回収BOX

「認定NPO法人」の認定取得

2018年5月9日付けで「認定NPO法人※」として名古屋市より認定を受けました。

※認定NPO法人:NPO法人のうち、公益性において一定の基準を満たしていると所轄庁が認めた法人。NPO法人のうちの約2%が認定されている。
(2018年4月末現在、内閣府NPOホームページより)

大量生産・大量消費にNO! 誰もが日常的にリサイクル活動に参加できる場を運営しています。新しいリユースの仕組みづくりにも積極的にチャレンジしています。

① リユース＆リサイクルステーション

家庭から排出される12品目のリサイクル資源と12品目のリユース品を、スーパー・マーケットなどの駐車場で定期的に回収するシステムです。「リサイクルステーション」としては1991年から継続実施しています。市民・企業・行政・メディア・NPOがそれぞれの役割を担い、このシステムを支えています。2019年5月現在、名古屋市内に37会場ありますが、2019年5月末に5会場が廃止することが決まっています。

2018年度は新聞・雑誌の生産量の減少と市中の常設の古紙回収拠点の増加により、リサイクル資源の回収量は1,207トン、前年度比15%減となりました。

2018年6月からは、それまでエコロジーセンターRe☆創庫のみで行っていた羽毛製品の回収を37会場のリユース＆リサイクルステーションでも実施しました。回収を始める前は、羽毛布団をリサイクルに出す人がどれだけいる

のか疑問でしたが、2018年6月～2019年1月の8ヶ月間で1,073枚もの羽毛製品を回収することができました。回収された羽毛製品は、港区の障がい者の就労支援に取り組む「(社福)すぎな」に運ばれ、最終的には三重県明和町の工場で新たな羽毛製品として蘇ります。

これからも市民の皆さんニーズを探りながら、活動を拡げていきたいと考えています。



専用袋に詰められた羽毛製品を回収する
社会福祉法人すぎなのスタッフ

担当者の声



常設の古紙回収ボックスの増加や集団資源回収の各戸収集化(家の前まで資源ごみを取りに来てくれる方式)により、ステーションの回収量や持ち込み件数は減少傾向にありますが、リユース品の受付件数は横ばい。つまり、「リユース」という選択肢を選ぶ市民は少しずつ増えています。粘り強く拡げていきます。

(副代表理事／和喜田 恵介)

| | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度(前年度比) |
|------------|-------------|-------------|---------------|
| 会場数 | 38会場 | 37会場 | 37会場 |
| 総回収量 | 1,723トン | 1,424トン | 1,207トン(15%減) |
| 延べ開催回数 | 1,243回 | 1,163回 | 1,155回(1%減) |
| 延べ持ち込み件数 | 118,009件 | 106,225件 | 98,501件(7%減) |
| 延べリユース受付件数 | 12,527件 | 11,924件 | 11,983件(0%) |
| 古紙リサイクル効果※ | 27,300の木材節約 | 21,500の木材節約 | 16,700の木材節約 |

※「古紙リサイクル効果」は、リサイクルステーションで回収した古紙の量を木材に置き換えたものです。(古紙1トン=木材20本)

ご協力、本当にありがとうございます！

●以下の企業の皆さんから協賛金をいただきました。(五十音順)



●助成金を
いただきました。

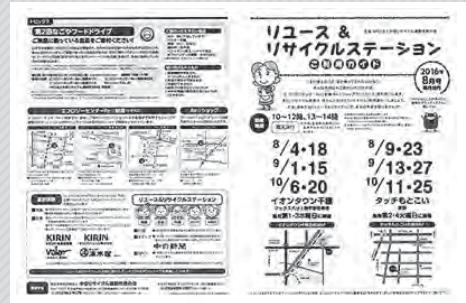


●新聞折込チラシ・新聞・フリーペーパーで開催告知協力をいただきました。

名古屋市内の中日新聞販売店などで構成されている「名古屋リサイクル推進協議会」には折込チラシ「リユース＆リサイクルステーションご利用ガイド」の作成と配布(偶数月／各回25万部)を、「中日新聞」「環境情報誌Risa」には紙面での告知協力をいただきました。

●多くの皆さんに支えていただきました。

雨の日も風の日も、現場を運営していただいている市民リサイクラーの皆さん(登録者数100名)や会場提供事業者の皆さん、事業協力金や広報で協力していただいた名古屋市など、さまざまな方々にステーションを支えていただきました。



② エコロジーセンター Re☆創庫 あつた

2010年6月オープンのRe☆創庫1号店です。2018年度の施設利用者は延べ28,046人、リユース点数111,295点、リユース売り上げ約1,724万円、資源回収量約403トンとなりました。2018年度は2名のサブマネージャー、1名のRe☆創庫スタッフ、8名の市民リサイクラー(リーダー)、約10名の市民リサイクラー(サポート)で運営しました。

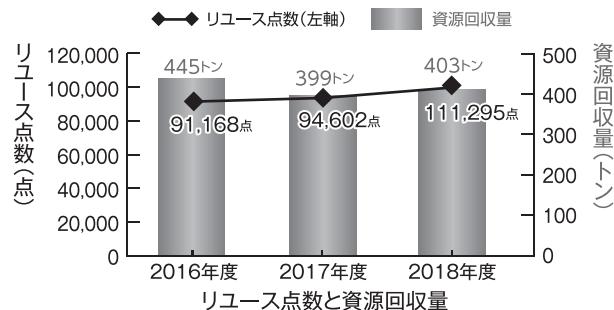
新たな作業として週に一度、Re☆ショップよしのへ値付け済商品を送っています。品揃えが売り上げにつながればとの思いです。お客様は、新旧の入れ替わりが目立ちますが、元から



あつたで好評の「平台」の陳列風景

来ていただいているお客様がマンネリ感を持たないような工夫が必要です。

次年度へと作業の簡素化、効率化等課題はありますが、スタッフ全員で知恵を出し合い、お客様に喜んでいただきたいと力を合わせていきます。



担当者の声



Re☆創庫ではリサイクル可能な金属を集めていますが、業者が引き取ってくれる金属の種類が狭まってきて、リサイクルできず廃棄せざるを得ないことが増えてきました。また、店外やリユース&リサイクルステーションへの不法投棄が増加しており、今後、利用者の皆さまへご理解とご協力をお願いしていきたいと思います。
(Re☆創庫あつた マネージャー／関口 利明)

③ エコロジーセンター Re☆創庫 さくら

2014年4月に、障がい者支援に取り組む「(社福)親愛の里」との連携により名古屋市南区にオープンしました。2018年度の施設利用者数は13,462人、リユース点数54,853点、リユース品売上約1,058万円、資源回収量約140トンとなりました。2018年度はマネージャー1名、3名の市民リサイクラー(リーダー)、7名の市民リサイクラー(サポート)で運営しました。

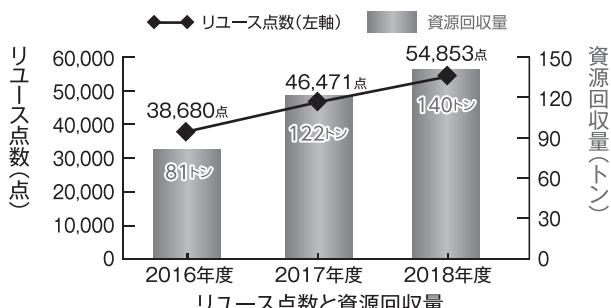
Re☆創庫さくらは、1月の初売り、4月の周年フェア、8月の残暑乗り切りセール、12月歳末大売出し年5回のイベントがあります。

月ごとに6のつく日の「くるくるデー」。どのイベントも、

毎年、数を重ねるたびにお客さんが増えていて、毎回100人前後のお客さんが来店されます。リユース品の持ち込み件数も毎年増え、今では月平均250件ほどあります。リユース品の持ち込みがさらに増えるようなイベントも行っていきたいと思います。



さくらくるくるデーの朝、開店を待つ皆さん



④ Re☆ショップ よしの

2014年にオープンした、資源回収は行わず、リユース品の販売と受付のみを行うショップ型の施設です。

2018年度の利用者数は6,711名(前年度比116%)、リユース点数23,618点(同139%)、リユース品売上約414万円(同115%)で、順調に成長を遂げています。

2018年度からは市民リサイクラー(ボランティア)中心の運営体制にシフトし、同時に、Re☆ショップよしのでの仕分け・値付けは原則行わず、Re☆創庫あつたから値付け済みのリユース品を配送する仕組みに移行。その結果、新体制でも順調に回っており、財政的にも黒字までもう一歩というところまでできています。

担当者の声

最近、少しずつ新しいお客様が増えています。各メンバーのフレッシュな感覚が、良い刺激になっていると思います。さらにお客様が増えていくように以下の様に考えています。

- ・お友達紹介カードを準備
- ・近所のお店などに、パンフレットを置かせていただく
- ・「よしの、ここにあり!」と分かって頂けるようなしきけを作成

(Re☆ショップよしの 市民リサイクラー／小林 もと子)



市民リサイクラーの皆さんのお力を借りて、さらに地域の皆さんに愛される施設にしていきたいと思います。



多くの人で賑わった4周年感謝祭のようす(2018年10月)

⑤ Re☆ショップ おおだか

2018年9月に名古屋市緑区にオープンしました。資源回収は行わず、リユースの寄付品の販売と受付のみを行うショップ型の施設で、「カフェ&レストランにんじん」の中にあるショップインショップです。

オープンして半年が過ぎ、月に2度、PRを兼ねたイベントを



道行くお客様にリユースのしくみをPR!

開催しています。毎月第1土曜日の「星の子マルシェ」の日と、第3木曜日(もしくは第4)にも外にテントを出して集客に一役買っています。

1月に入ってやや売上が落ちましたが、3月辺りから活気が戻ってきました。「カフェ&レストランにんじん」のスタッフが補充を担当してくれているので、補充品のリクエストを毎週もらい、それに応じて毎週木曜日にお客様のニーズに合わせたリユース品を搬入するようにしています。

担当者の声

2018年度は、おおだかもオープンして、週に一度搬入に行きました。直接搬入に行くので売れ行きなどもよくわかりました。にんじんさんが入れ替えのお手伝いもしてくれます。本当に妹分ができるよう、売上も気になるし、お客様の評判も気になります。これからもさくらと共に、成長して行ってほしいです。

(Re☆創庫さくら マネージャー／浅井 久美)



次代を担う「人」を増やすため、環境学習プログラムの企画・運営、小中学校での出前授業、講師派遣などを実行しています。

★ JICA 廃棄物管理研修

2018年度のJICA廃棄物管理研修は、スペイン語圏の中南米が対象で、キューバ、ドミニカ共和国、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコから6名の行政官が参加しました。研修期間は2019年2月上旬から約1ヵ月間で、日本のごみ処理やリサイクルの制度や技術、環境教育やNGOの取組について学びました。

今回のカリキュラムには、新規の講義・見学として、三重県桑名市で産業廃棄物の中間処理を行う「(株)ケー・シー・ジー」、古紙の



閉講式終了後の記念写真

中間処理を行う「(株)藤川紙業」、古着の中間処理を行う「(株)オノキヨ」、大阪府岸和田市で食品廃棄物・下水汚泥・家畜ふん尿からバイオガス発電を行う「リマテックR&D(株)」にご協力いただき、従来よりも10日間ほど短い研修期間でしたが、充実した内容のカリキュラムとなりました。

研修生の声

エディーさん (グアテマラ・エスキプラス市 環境管理課 課長)



日本の文化や廃棄物管理の歴史を学べたことはとても有意義でした。グアテマラでは消費主義文化があり、環境教育がまだ少ないで変わるべきです。自国の資金で日本のような施設や技術を使うことはできませんが、進むべき方向性が理解できました。

社会に対してより大きな影響を持つ活動をするために、企業とNPOがお互いの特徴を生かして協働するパートナーシップ事業を展開しています。

★ 記念日植樹券プレゼント事業

2001年から継続している中部電力(株)との協働事業。この協働関係は、この地域のエネルギー問題について、中部電力(株)と協議ができる関係づくりを進める中で生まれたものです。

この事業の目的は、自分の手で木を植える体験や、NPOの植樹活動に植樹券を寄付することを通じて、環境問題への気づきや環境行動を広げることです。これまで17年間で、6万5千人を超える方々と13団体のNPOとともに、44万本以上の苗木を国内外に植樹してきました。

18年目の2018年度事業では、1,000名の皆さんに「植樹券(苗木を植えられる権利)」をプレゼント。下図のような3つのメニューから、植樹券の使い道を選んでいただきました。

2019年6月22日(土)には、メニュー③を選んだ方を対象に、

植樹券寄付者の声

- 当選するとは思っていなかった「記念日植樹券」。初孫も誕生し、うれしいことが続きました。地球のためにも人類のためにも大切な森林の育成につながることができて、うれしいです。
- 「山と海をつなげる森づくり」素敵だと思います。時ノ寿の森クラブの皆さまの活動を応援します。頑張ってください。

NPO法人時ノ寿の森クラブの植樹活動に参加するツアーを開催する予定です。

当選者が選んだ植樹券の使い道

メニュー① 自分で植える、または大切な人に苗木をプレゼント(749件)



2018年度事業のパンフレット

メニュー② 「被災地で植樹する3団体」に植樹券を寄付(122件)

メニュー③

「時ノ寿の森クラブ」に植樹券を寄付(129件)

ツアー参加者から時ノ寿の森クラブへの植樹券贈呈式▶



時ノ寿の森クラブの植樹ツアーの集合写真(2017年度事業)

